基本目標4　明日を担う人を育て
一人ひとりの個性を活かすまち

政策１１　未来を担う人づくりの推進

施策27. 学校教育の充実

現状と課題

- 個性豊かで心身ともにたくましい幼児・児童・生徒を育成していくため、安全・安心な教育社会を創出していく必要があります。
- 特色ある教育の推進、国際化・情報化などの変化に即した教育の実践、学校・家庭・地域の連携強化による教育力の向上、幼稚園・小学校・中学校と高等学校の連携強化、人材育成のための奨学金制度の充実、障がいを持つ児童・生徒の教育の充実などを推進していく必要があります。

施策の方針

- 未来を担う子どもたちの生きる力の育成と、学校・家庭・地域の連携強化による教育力の向上を目指していくため、幼児教育・義務教育・障がい児教育の推進および学習環境の整備を図るとともに、地域の特性・環境を活かした特色ある学校経営に対する支援策の充実に努めます。
- 高等学校との連携・交流の推進に努めるとともに、人材育成・確保のために奨学金制度の充実を図ります。
- 学校給食での地産地消の推進、学校給食を通じた食育の普及・啓発に努めます。
- 少子化に対応した持続的な学校運営を行っていくため、小学校・中学校の統廃合を検討します。

役割分担

町民・地域

- 子どもの心身の健康を育み、規範意識の基盤をつくる
- 安全な環境をつくり、子どもたちに多様な体験の場を提供
- 学校現場への地域の積極的な関わり

行政

- 児童・生徒の個性に応じた教育環境をつくる
- 支援が必要な児童・生徒への支援体制の整備
- 学力と社会を生き抜く力を育む
- 安心して学習できる安全な環境をつくる
- 教員の教育力・資質向上を図る

数値目標

項目	単位	H28 年度（実績）	H34 年度（目標）	H39 年度（目標）	測定（取得）方法および設定の考え方等
英語検定資格保有者率(中学 3 年生の 3 級資格保有率)	%	25.0	30.0	30.0	学務課調べ 今後 5 年間の生徒数の 30%程度の保有率を目指す。
学校と地域ネット推進事業実施数	回	92	120	120	学務課調べ 各学校で独自に開催する回数が増えており、これまでの実績を踏まえた見込み回数とする。
奨学金貸付支援者数	人	52	45	40	学務課調べ 過去 5 年間の平均値とする。
地場産品を活用した食育事業※33 実施小学校・中学校数	校	10	12	12	学務課調べ 全小学校・中学校での実施を目指す。
町内高等学校との連携・交流事業実施数	件	2	8	12	学務課調べ 全小学校・中学校での実施を目指す。
広域体験学習支援事業の参加者数	人	218 (5 校)	250	250	企画財政課調べ 全小学校 8 校での実施を目指す。

主な取り組み

（１）幼児教育の充実

- 家庭・地域・小学校との連携強化により、総合的な幼児教育の充実に努めるとともに、家庭の経済事情に左右されず、すべての幼児が入園できるように、各種支援事業の充実を図ります。

（２）義務教育の充実

- 地域の特性・環境を活かした特色ある学校経営への取り組みや、社会で活躍できる人材の育成、国際化・ＩＣＴ化に対応できる人材の育成を推進するとともに、教職員の研修・研究体制の整備、地域の優れた人材を活用した学習環境の整備を図ります。

（３）高等学校との連携

- 青森県立名久井農業高等学校と連携して行っている農作業支援や南部太ねぎ商品化など地域産業との連携を引き続き、推進・拡充していきます。
- 青森県立名久井農業高等学校との連携を強化し、幼稚園・小学校・中学校の総合学習への協力や地域行事への参加など、交流の活性化を促進します。

（４）障がい児教育の充実

- 特別支援教育体制の充実や教育支援委員会による交流事業を進め、障がいのある児童・生徒の教育の充実を図るとともに、身体の障がいに対応する施設環境の整備を推進します。

※33　食育事業：様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる事業。

（５）教育環境の整備

- 奨学金制度の拡充、バリアフリー化に向けた施設整備、学校図書の充実、積極的な学校開放、安全・安心な学校給食などにより、よりよい教育環境の整備を推進するとともに、今後の少子化の進行に伴い、教育環境を維持していくため学校の統廃合の検討を進めます。

これまでの振り返り

- 恵まれた自然環境と町の歴史・文化を学習に活用し、郷土への愛着が醸成されました。
- 奨学金制度の充実を図り、人材の育成と確保に努めました。
- 施設の改修により、老朽化対策や長寿命化対策につながりました。
- 小学生・中学生の給食費の無料化を実施し、子育て家庭の経済的支援を行っています。
- 給食センターの建設により、安全・安心な給食の提供ができています。

施策28. 生涯学習・社会教育の充実

現状と課題

- 本町では、生涯学習の拠点となる公民館等を中心として、特色ある各種講座をはじめ、グループでの自主的学習活動を支援するためのパワーアップ教室を開設するなど、いつでも、どこでも、だれでも、学習者が自発的に学べる体制づくりを進めています。
- 今後は、全町的な生涯学習推進体制の整備・充実に努めていく必要があります。そして、常に町民の学習ニーズの的確な把握に努めながら、指導者の育成、多彩な学習プログラムの開発整備および学習情報の提供に努めていくとともに、町民の自主的な学習活動を促進していく必要があります。
- 学校・家庭・地域社会が子育てに関してそれぞれの役割や責任を十分に果たすために、三者が協働するネットワークを構築するとともに、学習環境を整備する必要があります。

施策の方針

- 生涯にわたって学べる環境整備のため、生涯学習拠点施設の整備・充実を図り、特色ある生涯学習プログラムの展開を図るとともに、参加者が活動しながらスキルアップ※34できるシステムをつくります。
- 社会の変化に対応しながら、ライフステージ※35に応じて自己の啓発・向上を目指し、生きがいのある人生と豊かで住み良い地域社会を実現する社会教育の推進に努めるとともに、家庭教育の重要性を理解していくための学習環境の整備を図ります。

役割分担

町民・地域

- 自ら進んで教養を高めるため学習活動に取り組む
- 地域ぐるみで学習する機会や環境づくりに努める

行政

- 町民の自発的な学習の支援に努める

※34　スキルアップ：技能や技術を向上させること。
※35　ライフステージ：人間の一生における幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期などのそれぞれの段階。

数値目標

項目	単位	H28 年度（実績）	H34 年度（目標）	H39 年度（目標）	測定（取得）方法および設定の考え方等
公民館講座受講者数	人	853	810	770	社会教育課調べ 人口減少の中でも平成 28 年度実績値の維持を目指す。
人口 1 人当たり図書貸出冊数(町民図書室分)	冊	0.78	0.74	0.70	社会教育課調べ 平成 28 年度実績値の維持を目指す。
町民図書室の蔵書数	冊	27,962	30,000	32,000	社会教育課調べ 購入により、年間４００冊程度の増を目指す。
青少年体験学習受講者数	人	79	60	55	社会教育課調べ 少子化の現状を鑑み、平成 28 年度実績値の 30%減とする。
子ども会ジュニアリーダー登録者数	人	33	32	30	社会教育課調べ 人口減少の中でも平成 28 年度実績値の維持を目指す。

主な取り組み

（１）指導者の確保・育成

- 生涯学習の充実を図るためには、地域の優れた人材を活用していくことが不可欠であることから、指導者やボランティアなどの確保と育成を図ります。

（２）地域の特性を活かした学習プログラムの整備

- 町民が生きがいを持った生活を送ることができるよう、社会情勢やニーズに合った講座を開設するなど学習機会の提供に努めるとともに、各種講座に参加した町民が、さらなる学習の場を求め、自主的な学習活動へスムーズに移行できる体制づくりを目指します。

（３）地域における学習活動の促進

- 町各部局の関係機関との連携を図りつつ、生涯学習関連施設の利用申請の簡素化・統一化などにより、利用しやすい環境づくりを推進します。
- 各種講座、各地域における「出前講座」の実施や図書室の充実を図るとともに、子どもたちの郷土愛を育む取り組みや青少年のふるさと意識の向上と地域の活性化を図るため、青少年と地域の交流推進に努めます。

（４）家庭教育の向上

- 幼児期、学童期および思春期における家庭教育のあり方を学ぶための学習機会の整備・支援に努めるとともに、学校・家庭・地域社会が子育てに対して、それぞれの役割や責任を果たすため、三者によるネットワークの構築に努めます。

（５）青少年および青年教育の推進と活動支援

- 地域の人材を活用した学習や、生活体験・交流活動を通じた子どもの豊かな人間性を育むための教育活動の推進、子ども会などの青少年団体の支援に努めます。また、地域の将来を担う青少年や、明日の親となる青年の学習活動を推進するとともに、青年団体の支援に努めます。

（６）成人教育の推進と活動支援

- 女性団体、成人団体の活動支援を推進するとともに、一人ひとりの学習と社会参加に向けて、学習者が自発的に学べる体制の整備に努めます。

これまでの振り返り

- 趣味の教室や公民館講座により自発的に学べる体制整備ができました。
  また、南部氏の歴史の謎に迫る歴史講演会「南部ふるさと塾」には毎回、全国から多くの方々が参加しています。
- 児童生徒の学びが深まるとともに、世代をこえた町民との関わりの中で学校と地域との連携が図られました。

施策29. 生涯スポーツの振興

現状と課題

- 少子化などを背景に学校での部活動やスポーツ少年団などの参加者数が減少し、一部の団体では活動や存続が困難となりつつあります。
- 一方で、教育委員会、体育協会、スポーツ団体およびスポーツクラブが中心となり、スポーツ教室、スポーツ大会および体育イベントを開催し、町民の健康・体力づくりを推進しています。
- 今後は、引き続き体育施設を整備するとともに、学校開放の検討などを推進していく必要があります。
- 体力や年齢、目的に応じたスポーツ教室・スポーツ大会の充実を図るとともに、魅力あるニュースポーツの普及、スポーツ指導者の育成、スポーツ団体の活動支援などに努め、生涯スポーツを振興していく必要があります。

施策の方針

- 日常的にスポーツを行い、誰もが気軽に親しむことのできる生涯スポーツの実現のため、体育協会をはじめとするスポーツ団体の活動支援、スポーツ教室やスポーツ大会の充実を図ります。

役割分担

町民・地域

- 日頃からスポーツや運動に親しみ実践する
- 地域ぐるみでスポーツに親しむ機会・環境づくり

行政

- スポーツや運動の機会の提供・普及啓発
- スポーツや運動を普及・振興する人材の育成
- スポーツや運動に親しむ環境整備

数値目標

項目	単位	H28 年度（実績）	H34 年度（目標）	H39 年度（目標）	測定（取得）方法および設定の考え方等
学校施設開放校数	校	12	12	12	学務課調べ 小・中学校全 12 校での実施を継続する。
体育協会加入者数	人	1,242	1,150	1,050	社会教育課調べ 人口減により、減少が見込まれる数値とした。
スポーツ教室・大会等参加者数	人	4,259	3,930	3,590	社会教育課調べ 人口減により、減少が見込まれる数値とした。

主な取り組み

（１）運動公園および体育施設の整備

- 既存の運動公園や体育施設の機能充実、利用促進を図るとともに、学校施設の開放を検討し、町民が利用しやすい環境整備に努めます。

（２）スポーツ指導者の育成およびスポーツ団体の活動支援

- 指導・助言できる指導者の育成・確保、体育協会、スポーツ団体およびスポーツクラブの活動の促進、地域の人材を活用したスポーツ活動支援体制の整備を検討します。

（３）スポーツ教室およびスポーツ大会の充実

- スポーツ教室およびスポーツ大会の開催により町民のスポーツ能力の向上、地域間交流を推進するとともに、町民の健康の維持・増進に向け、子どもから高齢者までが一緒に楽しめるニュースポーツの普及を図ります。

これまでの振り返り

- 名川中学校に隣接して、陸上競技場やサッカー場、多目的球技場を設けたふるさと運動公園を整備しました。
- 利用しやすい体育施設の環境整備などにより、町民の既存施設の利用促進を進めています。
- 研修会に参加することにより技術指導の向上が図られ、スポーツの指導者の育成が図られました。
- スポーツ教室およびスポーツ大会の充実により、町民のスポーツ能力の向上意識が高められるとともに、地域間交流が図られました。

施策30. 青少年健全育成の推進

現状と課題

- 本町では、学校・家庭・地域社会が協力・連携し、次代を担う青少年を健やかに育むために、学校支援ボランティア活動、家庭教育に関する相談会、家庭教育講座などを開催しています。
- 今後は、青少年が地域との交流を通じて自立性や社会性を身につけ、健やかに成長できるように、学校・家庭・地域などとの連携による非行防止活動や環境浄化活動の推進、家庭・地域の教育機能の向上、家庭教育などに関する学習機会の充実や相談・情報提供体制の整備、子ども会をはじめとする各種地域活動への親子での参画促進、青少年団体の育成および活動の支援などを進めていく必要があります。

施策の方針

- 青少年健全育成推進のため、学校・地域・家庭の連携強化、子育てや家庭教育の学習機会充実、地域の教育機能向上、非行防止・環境浄化活動を展開します。
- 青少年団体の育成・支援、青少年の自立性・社会性を培うための地域活動などへの参画促進の充実を図ります。

役割分担

町民・地域

- 「地域の子どもは、地域で育む」機運づくり
- 青少年に社会を生き抜く力を身に付けさせる
- 青少年が安心して健やかに暮らせる環境づくり

行政

- 関係機関等とともに青少年の健全育成活動の支援・推進
- 有害情報からの青少年の保護
- 犯罪被害を防止するための環境整備

数値目標

項目	単位	H28 年度（実績）	H34 年度（目標）	H39 年度（目標）	測定（取得）方法および設定の考え方等
家庭教育に関する相談の利用件数	件	6	6	6	社会教育課調べ 相談があった場合随時対応する。
青少年団体への加入者数	人	675	650	630	社会教育課調べ 少子化により加入者数の減少を見込んだ数値とする。

主な取り組み

（１）非行防止活動、環境浄化活動などの推進

- 学校・家庭・地域社会などが連携を強化し、情報の共有による非行の早期発見などの未然防止活動や環境浄化活動を展開するとともに、家庭教育や青少年健全育成に関わる広報・啓発活動の充実などを通じて、明るい家庭づくり、家庭・地域の教育機能の向上に努めます。

（２）家庭教育に関する講座の開催および相談・情報提供の充実

- 青少年健全育成には家庭の教育力を高めていくことが不可欠であることから、子育てや家庭教育に関しての学習機会の充実を図るとともに、相談窓口の一本化に向けた環境整備を検討します。

（３）青少年の地域活動などへの参画機会の充実

- 青少年が人々との交流を通じて、自立性や社会性を身につけていけるように、地域の子ども会活動や地域行事などへの親子での参画を促進します。

（４）青少年団体の育成・支援

- 現在の少子化時代において、協働での体験を通じて健やかに成長していけるよう、青少年団体への加入を促進するほか、ジュニアリーダー研修会への参加の意義を広く周知し、地域で活躍できる人材の育成に努めます。

これまでの振り返り

- 非行防止活動、環境浄化活動などの広報と啓発活動により、家庭・地域の養育機能の向上に努めました。
- 子育てに関する講座を開催し、資質の向上に努めました。また、野外活動においては集団生活を行い、子どもたちの生きる力を育むことに努めました。

施策31. 幅広い視野をもつ人材の育成

現状と課題

- 本町では、友情や愛郷心を育むことを目的として、小学生を対象に国内交流を実施しているほか、訪問国の歴史・文化・産業などの視察や国際協力の精神涵養、健全育成を図ることを目的に中学生を対象とした海外派遣交流を実施しています。
- 今後は、多様な価値観の形成や人材育成のための小学生国内交流の継続実施、南部氏ゆかりの市町との交流を通じた町の活性化などを進めていく必要があります。
- 広い視野と豊かな国際感覚を身につけた人材育成などを推進するため、中学生海外派遣交流の継続実施、外国語指導助手などによる外国語教育の充実、案内板・道路標識・観光パンフレットへの外国語併記や図案標示による国際化に対応したまちづくりなどを進めていく必要があります。

施策の方針

- 小学生国内交流や中学生海外派遣交流については、内容を一部見直しながら国内外の地域との交流を継続していくとともに、多様な価値観の形成と広い視野を持つ人間形成や国際感覚に満ちた人材育成に努めます。
- 南部藩発祥の地という特性を活かして、南部氏ゆかりの市町と交流することで町への愛郷心を育むとともに、案内板や道路標識、観光パンフレットの外国語併記など推進し、国際化に対応したまちづくりを推進します。

役割分担

町民・地域

- おもてなし体制の強化

行政

- 国際化に対応したまちづくりの推進

数値目標

項目	単位	H28 年度（実績）	H34 年度（目標）	H39 年度（目標）	測定（取得）方法および設定の考え方等
小学生国内交流事業参加者数	人	30	30	30	学務課調べ 平成 28 年度実績値の継続を目指す。
中学生海外派遣交流事業参加者数	人	23	30	25	学務課調べ 今後 5 年間の 4 中学校の 2 学年の生徒数の 2 割程度を維持する。

主な取り組み

（１）国内交流の推進

- 様々な交流による多様な価値観の形成や人材育成を推進するとともに、全国の南部氏ゆかりの市町との交流を通じ、多方面での交流による町の活性化を推進します。

（２）国際交流の推進

- 国際化の一層の進展に対応し、広い視野と豊かな国際感覚を身につけた人材の育成と、海外の人と積極的に交流するまちづくりを推進するとともに、町内在住の外国人や観光などで訪れる外国人が、町内で気軽に行動できるように、案内標識や道路標識、観光パンフレットの外国語併記や図案表示などを推進します。

（３）産学官連携の推進

- 経済活動に直接結びつく民間企業やＮＰＯ法人等の広い意味での「産」、大学や高等学校などの「学」、政府・地方公共団体などの「官」による、周辺市町村を含む広域的な産学官連携を推進します。
- 学校教育と連携して、地域の歴史や郷土芸能などへの理解を深めることや、文化活動・地域活動を通じることで郷土愛の醸成を図ります。

これまでの振り返り

- 中学生の海外派遣交流により、海外の文化に触れるとともに現地の中学生との交流などを行っています。
- 様々な交流体験の実施により人材育成が図られるとともに、愛郷心を育むことができました。
- 南部氏ゆかりの自治体と交流し、参加児童の親睦が図られました。

政策１２　貴重な地域文化の継承と新たな文化の創造

施策32. 芸術･文化の振興

現状と課題

- 本町では、文化協会をはじめとする芸術・文化団体の育成および支援のため、公民館講座や趣味の教室などの学習機会を提供するとともに、芸術・文化団体の発表機会の充実に努めています。
- 今後は、文化協会や町民が自主的に取り組んでいる芸術・文化活動に対する支援、および鑑賞機会の提供などを積極的に推進していく必要があります。

施策の方針

- 芸術・文化団体の育成や支援、各種学習機会の提供などにより、町民の自発的な活動を促進するとともに、優れた芸術・文化活動の鑑賞機会の拡充と発表機会の充実に努めます。

役割分担

町民･地域	・芸術・文化に親しみ普及に努める
行政	・芸術・文化を享受できる機会の充実

数値目標

項目	単位	H28 年度（実績）	H34 年度（目標）	H39 年度（目標）	測定（取得）方法および設定の考え方等
文化団体(文化協会を含む)加入者数	人	710	675	640	社会教育課調べ 人口減による減少が見込まれる数値とした。
芸術・文化鑑賞会および発表会参加者数	人	1,100	1,045	990	社会教育課調べ 人口減による減少が見込まれる数値とした。

主な取り組み

（１）芸術・文化団体の育成・支援

- 文化協会をはじめとする芸術・文化団体の育成・支援に努めるとともに、各種公民館講座や趣味の教室などの学習機会の提供により、新しい分野の活動支援に努め、町民の自主的な活動を促進します。

（２）芸術・文化を親しむ機会の充実

- 既存の施設を利用し、優れた芸術・文化の鑑賞機会などの充実を図り、芸術・文化に関する町民の関心と意識の高揚に努めるとともに、町民の芸術・文化活動の成果の発表の場として、文化協会との共催による文化祭の開催を推進します。

これまでの振り返り

- 文化協会の活動を支援することで各種発表会およびサークル活動の活性化が図られました。また、一部では自主的な活動に繋がっています。
- 小学校・中学校の作品展と同時に文化協会の作品展示も行っています。

施策33. 歴史・文化遺産の保存と伝承

現状と課題

- 国・県および町指定文化財の保護・保存の徹底を図るとともに、南部氏関連城館の発掘調査を計画的に進め、全国に情報を発信していく必要があります。
- えんぶりをはじめとする各種郷土芸能を保護・伝承していくために、南部芸能伝承館を中心とした指導者や後継者の育成に努めていくとともに、郷土芸能発表会や南部地方えんぶりの開催など、発表機会の充実に努めていく必要があります。

施策の方針

- 南部藩発祥の地といわれる本町には、貴重な文化財や郷土芸能が数多く遺されているため、文化財の調査、保護および活用、郷土芸能の保存および継承に努めます。
- 学校教育と連携して地域の歴史および文化の学習機会の拡充により郷土愛の醸成を図るとともに、出土品や郷土資料等の展示収蔵施設の整備や案内板などの充実に努めます。

役割分担

町民・地域

- 地域の歴史・文化を学び関心を持つ
- 地域の歴史・文化の保存・継承に努める

行政

- 地域の歴史・文化の理解・関心が深まるよう取り組む
- 地域の歴史・文化を保存・継承する団体等の支援

数値目標

項目	単位	H28 年度（実績）	H34 年度（目標）	H39 年度（目標）	測定（取得）方法および設定の考え方等
郷土芸能後継者育成事業参加者数	人	16	14	12	社会教育課調べ 人口減による減少が見込まれる数値とした。
国・県・町指定文化財件数	件	72	80	88	社会教育課調べ 毎年度 1~2 件の町文化財指定を目指す。

主な取り組み

（１）南部氏関連城館等の保存・調査・整備の充実

- 史跡聖寿寺館跡をはじめとする南部氏関連城館等の発掘調査を進め、町の歴史的な価値を高めていきます。
- 聖寿寺館跡の土地公有化・史跡公園としての整備を進め、貴重な歴史遺産を保存・活用していきます。

（２）文化財の調査・保存

- 地域に残る貴重な文化財を調査し、町文化財などに指定・保護するとともに、後世に継承していきます。

（３）展示・収蔵・学習施設の充実と有効活用

- 史跡聖寿寺館跡の出土品や貴重な文化財などの郷土資料を常時展示・収蔵し、町内外の人々に本町の歴史を伝えることができるような施設整備に努めるとともに、案内標識などの整備および充実を図ります。

（４）南部学研究会の開催

- 発掘調査成果や文献調査をもとに、本町や南部氏の歴史を整理・研究するとともに、講演やシンポジウムを開催し、全国に本町の歴史的重要性を発信していきます。

（５）歴史的価値の普及

- 学校教育と連携して、体験発掘や出前授業など地域の歴史および文化を学ぶ機会を拡充し、郷土愛の醸成に努めます。

（６）郷土芸能の保存・伝承活動の充実

- 郷土芸能発表機会の充実を図り、郷土芸能の指導者および後継者の育成に努めるとともに、郷土芸能保存団体や子どもの継承活動の支援に努めます。
- 郷土芸能の歴史的背景を調査し、保存していきます。

これまでの振り返り

- 聖寿寺館跡の発掘調査により、東北最大の大型建物跡や東北唯一の金箔土器、最古の向鶴銅製品など国内屈指の貴重な成果が得られました。
- 平成 24 年度からは歴史シンポジウムである南部学研究会を開催し、毎回全国各地から多くの方々が参加しています。
- 小学生を対象に体験発掘や出前授業、古街道ウォークを開催しています。
- 平成 29 年度から史跡聖寿寺館跡案内所がオープンし、史跡ガイドの養成を開始しました。